

PRESS RELEASE

# KANZAN

Shimomura Kanzan  
A Retrospective

下村観山展

2026.

3.17—5.10

[火]

[日]

東京国立近代美術館

The National Museum of Modern Art, Tokyo



《蜀法師》（複製部分）

1915（大正4）年

東京国立博物館蔵

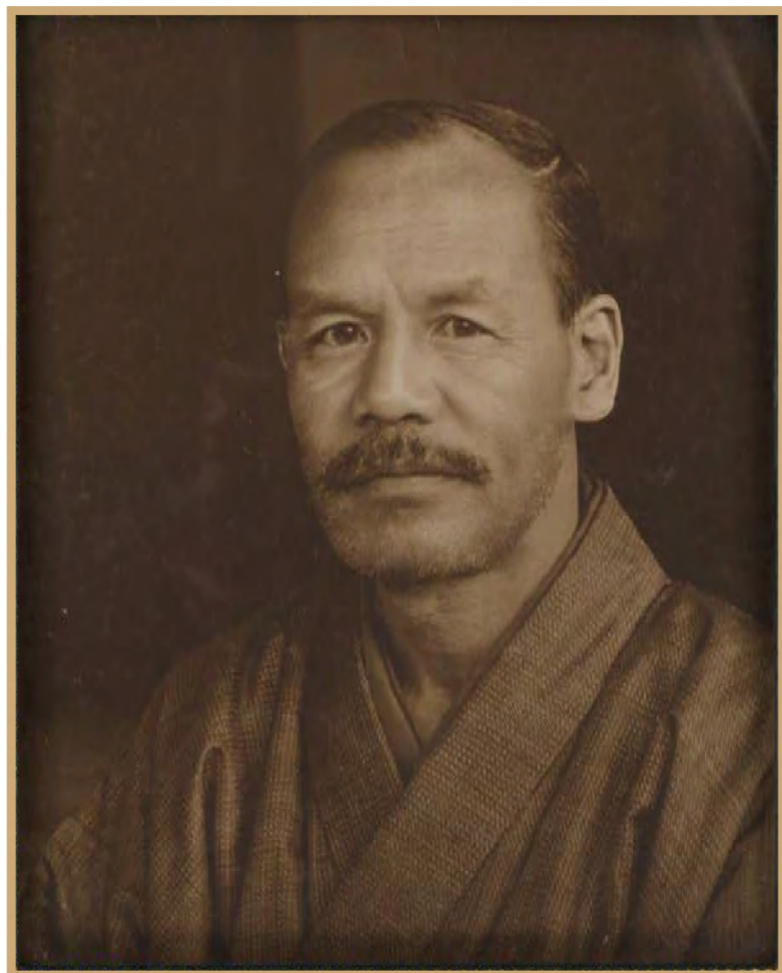
重宝文化財

Image: TTM Image Archives

描いたのは、夢幻の世界。

あなたはまだ知らない

# 千年の美に挑んだ、稀代の天才・<sup>しも むら かん ざん</sup>下村観山。 関東で13年ぶりの大回顧展、傑作150件超を公開！



① 下村観山(1873-1930)

日本画家・下村観山(1873-1930)は紀伊徳川家に代々仕えた能楽師の家に生まれ、橋本雅邦に学んだのち、東京美術学校に第一期生として入学。卒業後は同校で教鞭を執るも校長の岡倉天心とともに同校を辞職、日本美術院の設立に参加しました。

岡倉の指導、そして1903(明治36)年からの2か年にわたるイギリス留学、欧州巡遊などを糧に、卓越した技術力と深い教養に裏打ちされた発想力によって、横山大観、菱田春草らとともに新時代にふさわしい日本美術の道を切り拓きました。

狩野派、やまと絵、琳派など伝統的な日本絵画の筆法から、西洋画的な色彩・陰影表現まで、いわば“千年の美”の技術を我が物にし筆を振るった観山。

本展では、観山の代表作により作家の画業を通観するとともに、最新の研究成果も盛り込みながら、日本の近代美術史における観山芸術の意義を改めて検証します。

## 1 誰もが圧倒される“超絶筆技”を味わう

狩野派、大和絵、琳派、中国絵画そして西洋絵画まで、東西の伝統的な絵画表現を徹底的に学び、自由自在に筆を操った観山。今もなお、その繊細な筆技は他の追随を許さないほどのです。



②《獅子図屏風》1918(大正7)年 水野美術館蔵

## 2 観山芸術の意義を再検証 —作品の意味を読み解き、成り立ちを探る—

よく見ると和洋折衷の不可思議な表現、ミステリアスなモチーフなど、観山の作品には気になる部分がたくさんあることが分かります。そこには技法の他に、その作品を描くことになった経緯(作品の成り立ち)も関係しています。これらをひとつひとつ解きほぐすことで作品の示す意図を明らかにし、それを通じて観山芸術の意義を再検証します。

## 3 大英博物館蔵、 英国留学時の観山作品が 初の里帰り

新しい日本の絵画には色彩の研究が必要だと考え、日本画家初の文部省留学生としてイギリスへ留学した観山。現地で親交を深めた小説家で東洋美術研究家のアーサー・モリソンに贈った自作(大英博物館蔵)が初の里帰り！  
作品からは、海外経験を通じ観山が考えた「日本画のあり方」をも感じていただけます。

③《テイオゲネス》1903-05(明治36-38)年頃 大英博物館蔵  
© The Trustees of the British Museum





よろぼし

# 重要文化財《弱法師》に迫る

謡曲を題材に描いた、観山唯一の重要文化財。  
そこには観山芸術の真骨頂ともいえる  
「卓越した技術×深い教養×高いアレンジ力による“仕掛け”」が詰まっています。

謡曲「弱法師」あらすじ ～盲目となった俊徳丸が、心の目で見た景色～

河内国・高安の里の高安通俊は人の讒言により実の子(俊徳丸)を追い出してしまう。  
俊徳丸は盲目となり流浪、天王寺(四天王寺)に到る。折しも梅の花散る春の彼岸の  
日、父・通俊もまた改心のための施行で天王寺にあり、俊徳丸と再会する。

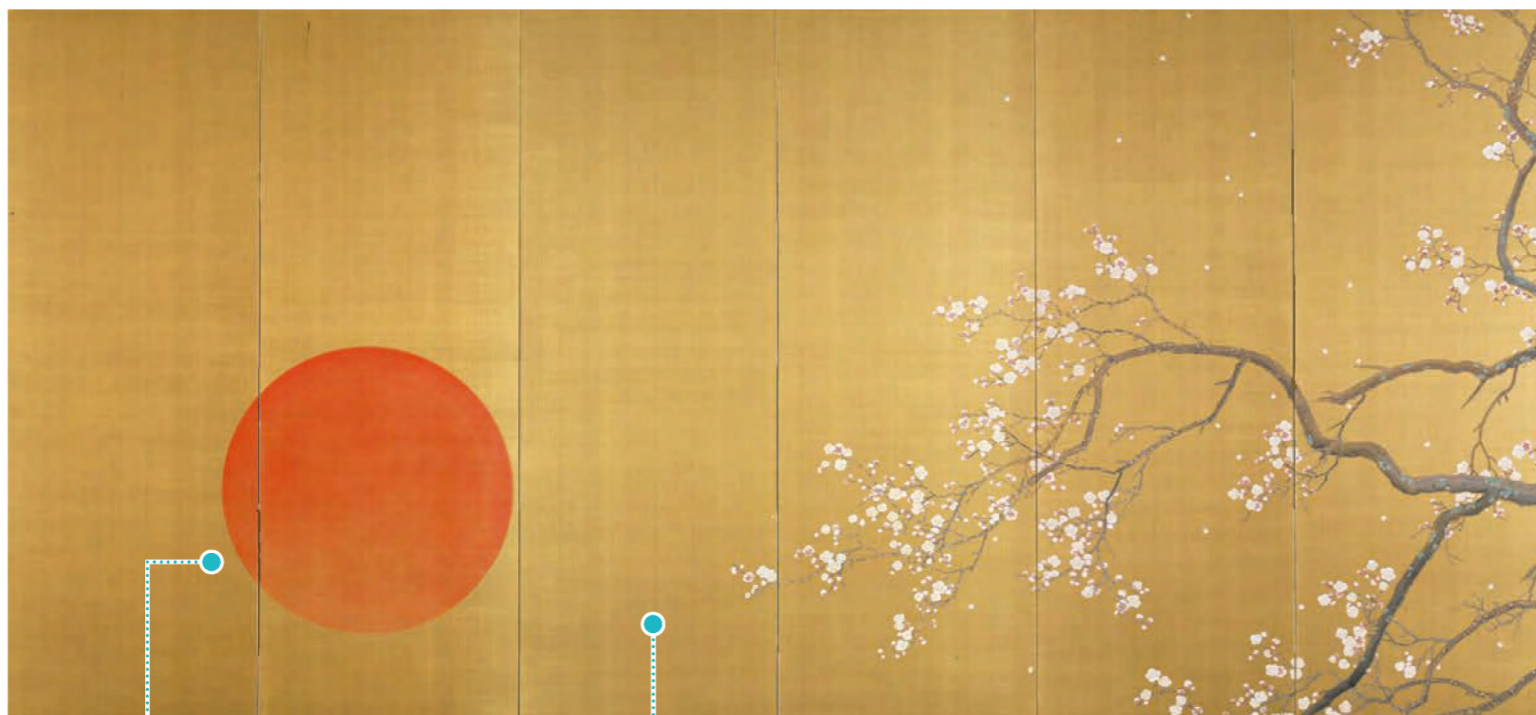
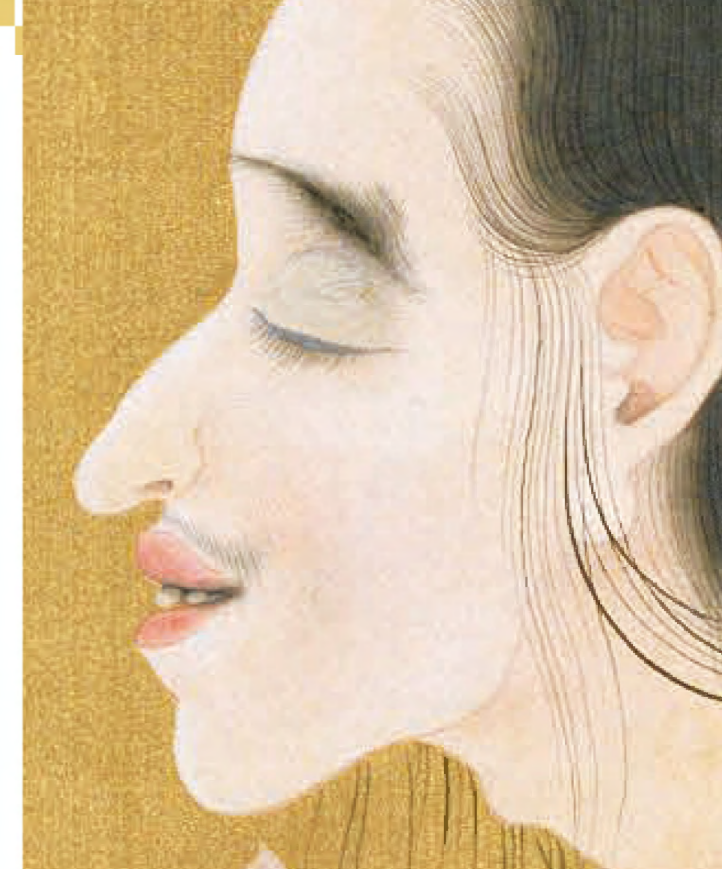
観山の《弱法師》はそのクライマックスシーン。父とは知らず勤められて日想観(日没を  
拝み西方浄土を想う瞑想法)を行う俊徳丸は、かつて肉眼で見た美しい難波の浦の  
景色を、心の目で「見える、見えるぞ」と思い起こす。

## 俊徳丸の超繊細描写

絵具のぼかしによる「落ちくぼんだまぶた」、細い墨線による「閉じられた目と長いまつ毛」「おくれ毛」などで、放浪する盲目の俊徳丸の姿を表現しています。

## 日本の伝統絵画×西洋画風の表現

交差した木の枝を表す線、人物の着衣の線にも金を使用するなど日本の伝統絵画由来の装飾的表現を用いながらも、西洋画風の陰影をつけた人物、梅の幹の描写を合わせることで画面に現実感を与えています。



## 入日(沈む夕日)を 梅の梢の先に配置

俊徳丸の拝む方向へ、梅の枝に導かれるように右から左へと視線を移すことで、作品を見る私たちも入日の向こうに西方浄土を「観る」のです。

## 光に満ちた景色を 金地で表現

金地は、あたりを包む入日の光を暗示するとも解釈することが出来ます。謡曲「弱法師」には光の情景描写はありませんが、ここでは金地で印象的に表しています。



## 観山の深い教養が うかがえるアイテム

これは仏身が描かれる卒塔婆。  
謡曲「弱法師」には登場しないアイテムですが、ここに描きこむことで西方浄土を暗示させています。

④《弱法師》1915(大正4)年 重要文化財 東京国立博物館蔵  
Image: TNM Image Archives ※表紙掲載画像

会場で単眼鏡レンタル実施!  
1mm以下の、  
“超絶筆技”の世界へ

細部にこだわった観山の筆技を余すことなくご覧いただくため、会場ではビクセンの単眼鏡をお貸出しします。繊細な観山ワールドをじっくりとお楽しみください。  
※料金等の貸出方法は未定です。決まり次第展覧会公式サイトにてお知らせします。



# 「東洋絵画×西洋絵画」の謎

観音の顔立ちがまるでモナ・リザ?!

三十三観音のひとつ、魚籃観音。中国絵画はもちろん日本の伝統的な絵画にも見られる画題です。しかし観山は、観音や両脇の男性らに西洋画的な陰影表現を駆使しました。特に発表当時賛否両論を巻き起こしたのが、レオナルド・ダ・ヴィンチの《モナ・リザ》を思わせる顔立ちの観音です。観山はそれまでにも、東西の絵画技法や図像を広く自分のものとするこことで、従来の日本絵画の革新をはかろうとしてきました。そんな彼がなぜ、留学から20年を経た当時、あえてモナ・リザと分かるような顔を描いたのでしょうか。

⑥《不動尊》1925(大正14)年 大倉集古館蔵



⑤《魚籃観音》1928(昭和3)年 西中山 妙福寺蔵

「観山ゴールド」

金の魔術師・観山による、



卓越した技術なしには描けない！  
画面のほとんどが金泥の衝撃。

色合いの異なる複数種の金を使い、細く描く、広く塗る、ぼかす…金の表現の可能性を存分に引き出しています。特に濃い金泥の扱いには修練が必要です。この作品以外にも観山は多くの作品で金(箔や泥)を効果的に多用しています。“金の魔術師”、“観山ゴールド”と呼ばれるのも過言ではないでしょう。

政財界の重鎮へ、  
テラー  
メイド  
の二品

三菱財閥を率いる  
岩崎家からの依頼画に、  
婚礼を祝う渾身の工夫。



⑧《昆沙門天 弁財天》1911(明治44)年 徳島県立近代美術館蔵

右隻には題名の《昆沙門天 弁財天》のうち昆沙門天が、左隻には弁財天が描かれています。作品は三菱財閥を率いていた岩崎家から、松方正義の金婚祝いのために依頼されて制作したもの。財福にまつわる二神、金地に昆沙門天の金の甲冑、弁財天のふくよかで色彩豊かな体軀といった表現には金婚の祝賀の意味が込められていると読めます。樹木、藤やヒオウギといった夏草によるおだやかな景色を背に向かい合う二神を、松方夫妻と見ることも可能でしょう(ただしこの二神は夫婦ではない)。

作品贈呈の意図を汲み、それを構図やモチーフにまで落とし込んだ作品は、まさにテラーメイドとってよいでしょう。なお制作当時健在だった岡倉天心から琵琶の音が聞こえないと言われ、観山は徹夜で考えた末にヒオウギを描き込んだとも伝えられています。

作品の魅力…  
卓越した技術×深い教養×  
高いアレンジ力による  
「仕掛け」

日本、東洋の伝統的絵画の技法や図像を徹底的に学び、留学を通して西洋絵画を研究した観山。また出自である能をはじめ、歴史、文学など彼の知識の引き出しの多さと深さは計り知れません。さらに作品を作る時、主題の物語には登場しないはずの道具を描き込んだり、伝統的な絵画の定型には見られないモチーフを組み合わせを試みたり、観山はいろいろなアレンジを加えます。一見不思議でミステリアスにさえ感じられる作品の意味を読み解いていくと、そこには見る人の気持ちを盛り立てるための仕掛けや、作品を手取る人へのメッセージが隠されていることが分かります。

画風・性格ともに突き出た個性を持ち注目を集めた盟友・大観、対して穏やかな観山。そのためこれまで日本美術院の活動を語る時、大観にスポットが当たりがちでした。ですが、観山が凝らした「仕掛け」もまた、それまでの伝統的な定型表現を打ち破るものだったのです。

# 社会のための絵画 渋沢栄一とともに



⑦《楓》1925(大正14)年 南湖神社蔵 画像提供:白河市歴史民俗資料館

院展のような美術展覧会以外に、観山は社寺、宮家、実業家といったさまざまな相手のために作品を作りました。一万円札で知られる渋沢栄一はその代表で、彼や高田早苗といった実業家、学者による「観山会」では、作品頒布だけでなく、作家・会員が集まり清談や古美術鑑賞旅行なども行われました。

白河市の南湖神社に伝わるこの作品は、観山会とは別に渋沢が観山に依頼したもの。栄一は、社会事業への注力の過程で敬意を寄せた松平定信顕彰の一環として、定信を祀る南湖神社(白河市)の創建にも奔走しました。作品は橋本雅邦の次男永邦の《桜図》とともに神社に奉納、実際に拝殿に掲げられ、神社に「一段の光彩」を与えるものとして大いに歓迎されました。



⑨ 橋本雅邦宛下村観山書簡「1903(明治36)年10月23日付 個人蔵」



## 異国の地での奮闘ぶり

### 英国留学・ヨーロッパ巡遊で熱心に画力を磨いた様子がわかる絵葉書

1903(明治36)年から2年におよぶイギリス留学、ヨーロッパ巡遊を伝える文字資料は、驚くほど残されていません。わずかに異国の地での観山の奮闘ぶりを生々しく伝えてくれるのが、師・橋本雅邦や母に対して送られた便りです。

この手紙には、美術館で古今の名画に接することのできる喜びと同時に自分の未熟さを思い知らされる、と身の引き締まる思いで日々を送る様子が綴られています。添えられた絵には、下宿先でも熱心に制作する観山が描かれています。

### 下村観山 年譜

1873(明治6)年	4月10日、和歌山市に生まれる。本名晴三郎。家は紀伊徳川家に仕えた能楽師・幸流小鼓方。
1881(明治14)年	8歳 一家で上京する。
1882(明治15)年	9歳 この頃狩野芳崖に師事。号を「北心斎東秀」とする。
1886(明治19)年	13歳 橋本雅邦につく。鑑画会例会出品作品をきっかけにアーネスト・フェノロサに注目される。
1889(明治22)年	16歳 東京美術学校第一期生として入学。「観山」の号を使い始めたか。
1894(明治27)年	21歳 東京美術学校卒業、同校助教授となる。
1898(明治31)年	25歳 日本美術院の設立に参加。
1903(明治36)年	30歳 日本画家初の文部省留学生としてイギリスに渡る。
1905(明治38)年	32歳 ヨーロッパ巡遊後帰国。
1906(明治39)年	33歳 一家で茨城県・五浦に移住。文部省美術展覧会(文展)に出品、審査委員も務める。
1911(明治44)年	38歳 渋沢栄一、高田早苗らによる後援会「観山会」発足。観山没年まで続く。
1912(明治45)年	39歳 再び上京、翌年横浜・本牧和田山に転居。
1914(大正3)年	41歳 前年の岡倉天心逝去をうけ、横山大観らとともに日本美術院を再興する。以後は院展を中心に各種展覧会に出品のほか、委員等も担う。公的、私的な依頼制作も多数。
1917(大正6)年	44歳 帝室技芸員となる。
1930(昭和5)年	食道がんを患い、5月10日、享年57にて没。

⑩《竹の子》(絶筆) 1930(昭和5)年 個人蔵



### 観山ってこんな人… 無口で情の厚い酒豪

無口と言われた観山。しかし日本美術院で一、二を争う酒好きであることは有名で、ある時旅の途中で後輩らに合わせて汽車の席を一等から二等に下げ、道中痛飲したといいます。酒が回れば宴席で踊ることも。謡曲はもちろん長唄もたしなみました。面倒見がよく、若い画家や純粋な絵画好きに対しては、身分の高低にかかわらず情が厚く親切でした。



展覧会名 下村観山展  
会場 東京国立近代美術館 1階企画展ギャラリー  
会期 2026年3月17日(火)～5月10日(日)  
休館日 月曜日(3月30日、5月4日は開館)  
開館時間 10:00-17:00(金曜・土曜は10:00-20:00)  
主催 東京国立近代美術館、日本経済新聞社  
特別協力 神奈川県立歴史博物館  
協力 ビクセン

※会期中、一部作品の展示替えを行います。  
※開催情報は変更になる場合があります。

展覧会公式サイト:<https://art.nikkei.com/kanzan/>

美術館ウェブサイト:<https://www.momat.go.jp/exhibitions/567>

展覧会公式X:@kanzan2026

お問い合わせ:050-5541-8600(ハローダイヤル)

## 巡回情報 西日本では45年ぶり!

会場:和歌山県立近代美術館

会期:2026年5月30日(土)～7月20日(月・祝)

観覧料金、イベント、音声ガイド、オリジナルグッズ等の情報は順次展覧会公式サイト等でご案内いたします。



⑪《木の間の秋》1907(明治40)年 東京国立近代美術館蔵

問い合わせ先

「下村観山展」  
広報事務局(ウインダム)  
担当:白井、沼澤

TEL:03-5642-3767 FAX:03-3364-3833  
e-mail:kanzan@windam.co.jp  
〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町2-14-11-2F